

1. 第3次総合計画における施策の体系							
目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	10	名称	歴史的町並み及び集落景観の保全			
主担当部	生涯学習部		主担当課	今井町並保存整備事務所		部長名	寺田 和政
関係部	まちづくり部		関係課	都市計画課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)							
この施策の目的	重要伝統的建造物群保存地区である今井町や旧街道の交差点に発達した八木札の辻周辺の歴史的町並み景観や大和盆地に見られる特徴的な集落である環濠集落等の集落景観の保全と活用を図り、次世代に引き継いでいくとともに、文化財と住民生活の共存などを図り、地域の個性や特徴を活かした魅力や賑わいのあるまちづくりを進めることを目的とする。						

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)							
この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について			社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について			
	今井町伝建地区内では、空家、空地の増加や人口減、高齢化が進み、町の賑わいが失われてきている。住民が住み続けながら町並みを保全していく必要のある歴史的な「まち」であるため、伝統的建造物の居住環境や町全体の住環境の整備、改善、空家等の対策、地区の活性化等の要望があり、町並み保存の推進と地区の歴史的資産を活用したまちづくりが求められている。また、その他の良好な町並み景観や集落景観を保全するため、市民・事業者とともに景観法や市景観条例にある景観施策を展開することが求められている。			今井町伝建地区は国内でも屈指の歴史的町並みであり、保存修理事業については、文化財保存のための伝建地区制度の中で、継続的に国及び県の支援を受けることができ、住環境整備の面では、街なみ環境整備事業の再延長について国の承認を受け、継続して事業に取り組むこととなった。また、景観法制定以後、国では、景観関係の新たな事業や制度が設けられており、景観形成の取組も幅広く実施することが可能になってきている。			
これまでの成果	今井町伝建地区内では、空家の増加や人口減、高齢化が進み、町の賑わいが失われてきているが、空家対策として行政側から積極的に空家の所有者に対して伝建地区内の規制や補助制度等の説明をおこなうことにより、空家も徐々にではあるが減少しつつある。また、住環境整備事業では御堂筋における電線の地中化や道路の美装化を実施することにより、地区住民や来訪者の方々にとって魅力あるまちづくりが展開されている。						

空地									
	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	修理・修景件数	271件	275件	281件	280件	285件	300件	修理・修景補助件数
	施策指標② (成果指標)	街なみ環境整備事業進捗率	81%	83%	83%	86%	89%	97%	全体事業費合計/計画全体事業費
	施策指標③ (成果指標)	来訪者数(今井まちなみ交流センター入館者数)	38,042人	33,000人	33,220人	33,500人	34,000人	40,000人	今井まちなみ交流センター来訪者記帳者数
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	見込み	
	歳出 (直接事業費)(a)		190,725	192,606	163,989	186,643	175,874		
	歳入 (b)	受益者負担額	4,865	4,135	5,120	4,439	4,439		
		国や県からの補助金その他	79,532	73,591	70,016	75,748	70,203		
	(a)-(b)=一般財源		106,328	114,880	88,853	106,456	101,232		
	正職員	従事者数 (単位:人)	4.65	5.60	5.60	4.80	5.00		
		人件費(c)	29,128	34,737	34,737	29,774	31,015		
トータルコスト (a)+(c)		219,853	227,343	198,726	216,417	206,889			

5. 施策の評価						
有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	<p>修理・修景事業は順調に実施しており、住環境整備においては街なみ環境整備事業を再延長し、御堂筋周辺の電線地中化等に着手している。また、地区内の保存会等の団体が、住民に対しても保存についての啓発や様々な取り組みを継続的に行なっており、また、空地・空家の増加という課題に取り組み活動している組織もあり、その成果として空き家への入居、居住の実績を上げ、地区の活性化に貢献している。今後についても、相当数の修理の計画の相談があり、また、修理に対する補助などの制度も拡充しており、順調な修理事業の進捗が見込まれる。これらの保存や住環境整備等の事業を継続していくことにより、国内でも有数の今井町の景観の維持、保全が図られることとなる。</p>				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	<p>今井地区内においては伝統的建造物群の保存と景観の維持のため、現状変更の規制をかけ歴史的町並みの保存整備を進め、一方で住民の生活環境の改善のため住環境整備事業を進めている。保存整備を進め町並みの価値を啓発することにより、檀原市民の皆さんにも今井町の歴史的町並みは誇りを持てるだけの価値ある観光資源であるということをご理解していただけており、今後においても市の観光資源として文化財の保存と住民生活が共存した調和のとれたまちづくりが進められることとなる。</p>				
6. 施策の課題						
この施策の課題	<p>今井町の伝統的建造物等を保存し、歴史的町並み景観を将来に引き継いでいかなければならないが、今井町伝建地区内では、空き家・空地が増加しつつあり、人口減少、高齢化が進行し、地区全体の活性が低下している。住民が生活する生きた町として保存と住民生活を共存させていくため、住民がそこで住み続けながら守っていくまちづくりが必要である。また、地区の活性化のためには、今井町の歴史的景観を観光資産として生かし、また、現在は町家が居住の目的で使われており、空き家が増加しているが、今後は良好な町並み景観を守っていくために、地区外からの居住希望者を増やす取組みや、町家の多様な用途への利用を拡大することが求められている。そのためには、住民自らが今井町の町並みの保存を考え今井のまちづくりに主体的に取り組むことが重要となっている。</p>					
7. 次年度以降の施策の方向性						
総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明	<p>住民に対し町並み景観や伝統的建物の保存の啓発を行い、町並の維持保存を図り、また、住民の生活と保存の共存を図るため住環境整備を進める。さらに、景観阻害要因の改善を行い景観の維持、保全につとめ、町並み景観を檀原市の重要な資産として有効に活用しながら魅力あるまちづくりを進め、将来に引き継いでいく。</p>				
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明					
8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）						
1次評価	説明	<p>町並保存事業と住環境整備事業は、歴史的町並み景観の保全という施策を進める上での両輪となる必要不可欠の事業であり、今後も継続、強化していく。今井まちなみ交流センター等施設管理運営事業は、今井町伝建地区を周知啓発し、今井町来訪者の案内、見学、学習施設として必要不可欠であるうえ、今井町の町並み景観を形成する上での重要な建物となっている。今井町公共施設維持管理事業は、地区内での事業に伴い整備された施設であり、維持管理を継続していく必要がある。現時点で、廃止・縮小していくべき事業はないと考える。</p>				
2次評価	説明					

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度一事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a:不可欠かつ施策の中核をなす事業、b:不可欠な事業、c:不可欠ではないが実施が望ましい事業、d:あまり有効ではない事業)
- ・方向性一事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)ー施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

(ソフト事業、内部管理・維持管理事業)

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
					貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
今井町並保存整備事 務所	ソフト 義務	今井まちなみ交流センター(華薈)は、今井町への来訪者のためのビジターセンターとして、来訪者等に伝統的建造物群に対する理解を深めてもらう為、模型や展示物、パンフレット等を設置している施設であり、また、町並み保存のための各種団体の活動の場として活用する一方、貸し施設として利用していただく施設である。まちなみ広場は、今井町への来訪者のための駐車場と地域住民によるイベント会場等多目的の広場として活用する。 今井まちや館や今井まちづくりセンターは体験見学施設としてのみならず、住民活動の場として活用する。	9,142	2	b	見直しながらかける	C
今井まちなみ交流センター等施設管理運営事業	○ ソフト 任意 内部管理・維持管理						

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
					貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
今井町並保存整備事 務所	ソフト 義務	今井町来訪者及び地区住民が快適に過ごせるよう以下の事業を実施する。 今井町公共施設の清掃をする 建物及び機械器具の維持管理・修理をする 植栽の維持管理をする 道路等の維持管理をする	8,276	2	b	見直しながらかける	
今井町公共施設維持管理事業	○ ソフト 任意 内部管理・維持管理						

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
					貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
今井町並保存整備事 務所	ソフト 義務	伝統的建造物群保存地区の制度を地域住民の方々に認識していただくための周知啓発を引き続き実施する。また、地区内において、建造物等の修理等が行われる場合については、現状変更の協議・許可申請並びに補助金の支出等の手続き等を的確に行い、関係機関・関係課と連携し調整を図りながら文化財保存修理事業を実施し、まちなみ景観の保存を推進する。その他、まちづくりや町並み保存のために活動している地域住民等により構成されている団体に対して支援を行う。	47,095	2	a	見直しながらかける	B
町並保存事業	○ ソフト 任意 内部管理・維持管理						

(ハード事業)

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
					貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
今井町町並保存整備事 務所	ハード	H5年度に事業計画を策定し、翌年度より道路の美化化、電線の地中化、小公園、生活環境施設、防災施設等の整備を実施し、事業計画策定当初の整備はほぼ完了している。 H16年には今井の玄関口に当たる今井東地区を区域に入れ、事業計画の変更を行い、H20年度より東地区の電線地中化等を実施し、H23年度に完了した。 また、H21年度に事業計画の変更見直しを行い、電線地中化未整備路線の無電柱化を推進するため、H30年度まで事業計画の延伸を行い、電線地中化事業を実施していく。	64,363	1	a	継続する	-
住環境整備事業							

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
					貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
今井町並保存整備事 務所	ハード	今井東地区の住環境整備すべく、不法占用物 件24件の移転補償及び除却を行い、改良住宅 入居希望者の為の改良住宅建設用地の買収、 改良住宅建設5戸を行う。不法占用物件除却 後、下排水路整備(施工延長180m)及び道路 整備(施工面積548㎡)をし、4物件の用地買収 及び建物補償を行い、公園整備(施工面積548 ㎡)を行うことにより、今井町の玄関口に相応し いものとする。	35,113	4	a	完了する	-
小規模住宅地区改良 事業							

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年 6月10日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	今井まちなみ交流センター等施設管理運営事業								
担当課名	今井町並保存整備事務所				課長名	寺田和政			
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち						
	施策	10	歴史的町並み及び集落景観の保全						
予算事業名	今井まちなみ交流センター管理運営費								
事業の開始年度	平成	6	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度		
対象	今井町来訪者及び地区住民			事業の内容説明	今井まちなみ交流センター(華蓋)は、今井町への来訪者のためのビジターセンターとして、来訪者等に伝統的建造物群に対する理解を深めてもらう為、模型や展示物、パンフレット等を設置している施設であり、また、町並み保存のための各種団体の活動の場として活用する一方、貸し施設として利用していただく施設である。まちなみ広場は、今井町への来訪者のための駐車場と地域住民によるイベント会場等多目的広場として活用する。今井まちや館や今井まちづくりセンターは体験見学施設としてのみならず、住民活動の場として活用する。				
事業の目的	歴史的町並みの保全の為、市民の文化、教養の向上を図るとともに伝統的建造物群に対する理解を深め、ふれあいと豊かな地域社会づくりに寄与することを目的とする。								
妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	説明	伝統的建造物群に対する理解を深め、豊かな地域社会づくりに寄与していただく為の施設であり、来訪者の為の案内施設及び見学施設として、又、地区住民や団体が行うまちづくり、町並み保存の活動の場としての施設として必要な為。							
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない				
		説明	今井来訪者の、伝統的建造物群に対する理解が弱まり、又、今井の町並み保存を進める地区内の団体の活動を弱め、豊かな地域社会づくりに寄与できなくなる。						
DO 実施	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
	成果指標	来訪者記帳者数		38,042	33,000	33,220	33,500	34,000	34,000
	活動指標①	開館日数		304	303	303	303	303	303
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
		歳出(直接事業費)(a)			8,474	9,387	9,142	8,358	8,358
		歳入(b)	受益者負担額		4,865	4,135	5,120	4,439	4,439
			国県補助金等その他		0				
		(a) - (b) = 一般財源			3,609	5,252	4,022	3,919	3,919
正職員		従事者数(単位:人)		0.70	0.70	0.70	0.60	0.70	
		人件費(c)		4,385	4,342	4,342	3,722	4,342	
トータルコスト(a)+(c)			12,859	13,729	13,484	12,080	12,700		
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)									

CHECK	有効性評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	パンフレット・模型等で説明し、来訪者に理解していただいております。又、各団体がまちづくりの為に、講演会を実施している。						
	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	歴史的町並み景観・集落景観の保全の為に、また、伝統的建造物群に対する理解を深める為に、この事業の占める割合は大きいと考えられる。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	今井まちなみ交流センターの人員費については、2人分のみ予算計上しているため、削減は難しい。今井まちづくりセンター・今井まちや館については、地元保存会に運営業務を委託しており、月9万円で運営しているため、削減は難しい。施設維持管理において、電気料金等冷暖房の適正温度管理で削減に努める。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	各施設と今井町をパンフレット及びホームページ等でPRすることにより、貸し施設利用率及び来訪者数を増やし、今井町の歴史的町並みの理解を広げることができる。							
	どんなことが期待できるか(効果)	各施設を地区の各種団体等が行うイベント・講演等に利用してもらうことにより、今井町のまちづくり・地域の活性化に寄与されることが予想される。							
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	課内優先度	C		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する	従事者数については、維持する必要がある。また、老朽化した機器については、修繕し改善する。				

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年 6月10日)

ソフト事業(義務)		ソフト事業(任意)		○ 内部管理・維持管理事業					
事務事業名	今井町公共施設維持管理事業								
担当課名	今井町並保存整備事務所			課長名	寺田和政				
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち						
	施策	10	歴史的町並み及び集落景観の保全						
予算事業名	今井町町並み施設管理費								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成				
対象	今井町来訪者及び地区住民				事業の内容説明 今井町来訪者及び地区住民が快適に過ごせるよう以下の事業を実施する。 今井町公共施設の清掃をする 建物及び機械器具の維持管理・修理をする 植栽の維持管理をする 道路等の維持管理をする				
事業の目的	歴史的町並み景観を保全し、今井町来訪者及び地区住民に快適な空間を提供する為、今井町公共施設を適切に維持管理することを目的とする。								
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	説明	歴史的町並み景観を保全し、今井町来訪者及び地区住民に快適な空間を提供する為。							
この事業を行うことは妥当か	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない			
			説明	歴史的町並み景観の保全が行なわれている。					
D O 実施	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	来訪者記帳数		38,042	33,000	33,220	33,500	34,000	34,000
	活動指標①	維持管理費		7,676	9,734	8,276	12,002	12,002	12,002
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
		歳出(直接事業費)(a)		7,320	9,734	8,276	12,002	12,002	
		歳入(b)	受益者負担額						
			国県補助金等その他	0					
		(a) - (b) = 一般財源		7,320	9,734	8,276	12,002	12,002	
正職員		従事者数(単位:人)	0.75	0.75	0.75	0.65	0.75		
		人件費(c)	4,698	4,652	4,652	4,032	4,652		
トータルコスト(a)+(c)		12,018	14,386	12,928	16,034	16,654			
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)									

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	来訪者、地区住民の憩いの場として、また、地区住民の生活環境の向上に貢献している						
	上位施策 への貢献 度はどう か	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	今井町公共施設を維持管理することにより、歴史的町並み景観の保全が行なわれている						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	今後も契約時は入札により経費削減に努める施設の老朽化により修繕費用もかさみ、光熱水費については、利用者の増加に伴い増えるため経費削減は難しい						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	維持管理経費を削減すると、今井町公共施設としての適切な維持ができず、来訪者及び地区住民に不快感を与え、今井町の良好な町並み景観を損なう恐れがある。伝統的建造物群としての町並み景観に合わせた適切な施設維持管理を行なっていく事で、今井町の環境が維持され、来訪者の増加に繋がることが予想される。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内 優先 度	-		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する		今井町は檀原市が誇る歴史的資産であり、多くの来訪者が見込まれるため、適切な水準での施設管理を続ける必要がある。			

○

ハード事業

P L A N	事務事業名	住環境整備事業							
	担当課名	今井町町並保存整備事務所			課長名	寺田和政			
	総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち					
		施策	10	歴史的町並み及び集落景観の保全					
	予算事業名	今井町住環境整備事業							
	事業の開始年度	平成	5	年度	事業の終了予定年度	平成	30	年度	
計 画	事業の目的	今井町重要伝統的建造物群保存地区の歴史的な町並みの保全と活用を図り、住民主体の賑わいのあるまちづくりを進めるため、住環境の整備を行う。		事業の内容説明(全体計画)	H5年度に事業計画を策定し、翌年度より道路の美装化、電線の地中化、小公園、生活環境施設、防災施設等の整備を実施し、事業計画策定当初の整備はほぼ完了している。 H16年には今井の玄関口に当たる今井東地区を区域に入れ、事業計画の変更を行い、H20年度より東地区の電線地中化等を実施し、H23年度に完了した。 また、H21年度に事業計画の変更見直しを行い、電線地中化未整備路線の無電柱化を推進するため、H30年度まで事業計画の延伸を行い、電線地中化事業を実施していく。				
	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
活動指標①	街環事業の進捗率		81	83	83	86	89	97	
活動指標②	電線地中化整備率		0	13	13	25	38	49	
D O 実 施	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
		歳出(直接事業費)(a)		92,795	89,411	64,363	112,146	101,377	
		歳入(b)	受益者負担額						
			国県補助金等その他		37,829	33,890	30,315	49,348	43,803
		(a) - (b) = 一般財源		54,966	55,521	34,048	62,798	57,574	
		正職員	従事者数(単位:人)		0.65	1.60	1.60	1.55	1.55
			人件費(c)		4,072	9,925	9,925	9,615	9,615
		トータルコスト(a)+(c)		96,867	99,336	74,288	121,761	110,992	
備考(これまでの実績等)									
C H E C K 評 価	(費用も含み)目標(計画)どおり進んでいるか	3	1 予定どおり	2 概ね予定どおり	3 達成できていない				
		説明	電線地中化事業実施に伴う関連事業者との調整に期間を要し、事業実施年度が1年度繰り延べとなった。 その他の事業については計画に基づき事業進捗している。						
A C T I O N 修 正 行 動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	4 完了する			
		説明	電線地中化事業については関連事業者との調整も整い、H24年度から実施した。 その他の事業についても、事業計画に基づき実施し、地区内における景観・住環境整備を進める予定である。						

○

ハード事業

P L A N 計 画	事務事業名	小規模住宅地区改良事業								
	担当課名	今井町並保存整備事務所			課長名	寺田和政				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち						
		施策	10	歴史的町並み及び集落景観の保全						
	予算事業名	小規模住宅地区改良事業								
	事業の開始年度	平成	16	年度	事業の終了予定年度	平成	23	年度		
事業の目的	今井町重要伝統的建造物群保存地区の玄関口である今井東地区の住環境を改善するとともに今井町の景観に配慮した整備を行うために小規模住宅地区改良事業を実施する。			事業の内容説明 (全体計画)	今井東地区の住環境整備すべく、不法占用物件24件の移転補償及び除却を行い、改良住宅入居希望者の為の改良住宅建設用地の買収、改良住宅建設5戸を行う。不法占用物件除却後、下排水路整備(施工延長180m)及び道路整備(施工面積548㎡)をし、4物件の用地買収及び建物補償を行い、公園整備(施工面積548㎡)を行うことにより、今井町の玄関口に相応しいものとする。					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	活動指標①	追加区域の用地買収及び建物補償		100						
	活動指標②	道路整備率		100						
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
		歳出(直接事業費)(a)			12,222	36,443	35,113			
		歳入(b)	受益者負担額							
			国県補助金等その他		5,583	16,901	16,901			
		(a) - (b) = 一般財源			6,639	19,542	18,212	0	0	
		正職員	従事者数(単位:人)		0.55	0.55	0.55			
人件費(c)			3,445	3,412	3,412	0	0			
トータルコスト(a)+(c)			15,667	39,855	38,525	0	0			
単位当たりコスト	計算式等									
備考 (これまでの実績等)										
C H E C K 評 価	(費用も含み)目標(計画)どおり進んでいるか	1	1 予定どおり	2 概ね予定どおり	3 達成できていない					
		説明	緑地(公園)整備については、奈良県施工の公園整備工事と隣接する区域であり、関係機関との調整に期間を要し工事完了が遅れていたが、H24年度に完了した。							
A C T I O N 修 正 行 動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	4	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	4 完了する				
		説明	H24年度で緑地(公園)整備が完了し、小規模住宅地区改良事業は完了した。							

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年 6月 5日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	町並保存事業								
担当課名	今井町並保存整備事務所				課長名	寺田 和政			
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち						
	施策	10	歴史的町並み景観・集落景観の保全						
予算事業名	今井町並保存事業費 報酬給与費								
事業の開始年度	昭和	59	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度		
PLAN 計画	対象	今井町重要伝統的建造物群保存地区内において、修理・修景事業等を実施しようとする者。			事業の内容説明	伝統的建造物群保存地区の制度を地域住民の方々に認識していただくための周知啓発を引き続き実施する。また、地区内において、建造物等の修理等が行われる場合については、現状変更の協議・許可申請並びに補助金の支出等の手続き等を的確に行い、関係機関・関係課と連携し調整を図りながら文化財保存修理事業を実施し、まちなみ景観の保存を推進する。その他、まちづくりや町並み保存のために活動している地域住民等により構成されている団体に対して支援を行う。			
	事業の目的	重要伝統的建造物群保存地区内に選定されている今井町地区において、伝統的建造物の保存に対する住民意識の高揚を図り、文化財の保存と承継及び景観保全に向けた取り組みを進める。また、地域住民と行政が連携・協力することにより、町並み保存と住民生活が共に成り立つまちづくりを進める。							
DO 実施	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	この事業を行うことは妥当か	説明	檀原市伝統的建造物群保存地区保存条例に基づき関与している。						
やめた場合の影響は	1		2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない				
	説明	今井地区内の建造物における修理・修景事業が遅れ、建造物が老朽化し町並み景観の維持が出来なくなる。							
DO 実施	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	修理物件数/伝統的建造物件数(504件)		49	50	51	53	54	60
	活動指標①	伝統的建造物等の修理物件数		245	254	256	265	274	301
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
		歳出(直接事業費)(a)			69,914	47,631	47,095	54,137	54,137
		歳入(b)	受益者負担額						
			国県補助金等その他		36,120	22,800	22,800	26,400	26,400
		(a) - (b) = 一般財源			33,794	24,831	24,295	27,737	27,737
正職員		従事者数(単位:人)		2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	
		人件費(c)		12,528	12,406	12,406	12,406	12,406	
トータルコスト(a)+(c)			82,442	60,037	59,501	66,543	66,543		
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)	修理・修景事案件数 281件 伝建番号数 256戸 補助金額 1,213,502,500円								

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い	説明 修理・修景事業を実施していただくために、特に老朽家屋や長屋(借家)等の所有者への「働きかけ」を、積極的におこなっている。また、その際に今井地区内における規制や補助制度等についての説明等を、具体的におこなうことにより修理・修景事業が進み町並み景観が維持されている。
		上位施策 への貢献 度はどう か	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い	
	効率性評価 経費削減は可能か	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる	説明 檀原市伝統的建造物群保存地区補助金交付要綱の補助基準の中で、事業者が修理・修景事業を実施される場合の補助率等が定められており、これをもとに査定をおこない補助金の交付決定額を算出しているため低減の余地はない。	
		説明						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	今井町重要伝統的建造物群保存地区内においては、老朽家屋が多数ありこれらの修理を早急を実施していく必要があると思われる。ただ、修理するに際しては膨大な費用がかかることもあり、行政から補助金を支出したとしても中々予算があわないといった理由で放置された状態の建物が多く見られる。これらの建物については、景観を損なうばかりではなく危険を伴う場合もあり、今後、これらの建物の所有者への「働きかけ」が重要であると考え。その為、できるだけ多くの補助金の支出が必要となるのは勿論のこと、様々な補助制度の活用が必要であり、我々職員も様々な補助制度があるということをも所有者に説明できるように知識の習得が不可欠であると考え。その結果、老朽家屋が減少し町並み景観の向上に繋がると考える。						
	どんなことが期待できるか(効果)							
修正行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながらかつける	3 縮小する	課内 優先 度	B	説明 今井町重要伝統的建造物群保存地区における保存整備計画については、平成21年度において見直しをおこなったところである。今後は、この整備計画に基づき整備をおこなう必要があると考える。また、整備を進めていくなかで見直しが必要な項目等が出てくるケースも考えられるので、その場合は検討し見直しが必要な場合については見直しをおこない継続的に事業をおこなう必要があると考える。
		4 廃止又は休止する	5 完了する					